






令和3年 **5**月の**思いやり**通信

目次

- (1)  微小プラ 世界中の魚介に 日本、1人年13万個摂取も
- (2)  太陽光発電 6割増 2030年度、現行支援策で試算
- (3)  日本、温暖化ガス46%減 2013年度比 米2005年比半減
- (4)  台風に耐える洋上風力 GE、日本設置へ認証取得
- (5)  「46%減」太陽光拡大で帳尻 脱炭素、経産省苦肉の積み上げ

(1) 微小プラ 世界中の魚介に

日本、1人年13万個摂取も

*プラスチックごみなどから壊れてできる5ミ以下の微小なマイクロプラスチックが世界各地の魚介類に含まれています。

*人間は食事を通じて1人当たり年間5万個を超える微小プラを摂取している恐れ。

*シーフードを好んで食べる日本の摂取量は、最大13万個。

*アジア諸国の貝類は微小プラの量が多い傾向。

(2021年4月6日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 太陽光発電 6割増 2030年度、現行支援策で試算

*経済産業省は、2030年度の太陽光発電の導入量が足元から6割増えるとの見通し。

・2019年度の約5600万キロワットから8800万キロワットに拡大。

*発電容量は単純計算で原発88基分に相当。

*現行の政策を維持した場合の試算。

*陸上風力は、現行の政策を続ける場合で約3倍の1300万キロワット程度の導入見込み。

*現在はほぼ設置がない洋上風力は、約100万キロワットとなる見通し。

(2021年4月7日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(3) 日本、温暖化ガス 46%減 2013 年度比

米 2005 年比半減 2030 年目標 再生エネ重要に

*温暖化ガスの排出削減目標を、日本は 2013 年度比で 46%減、米国は 2005 年比 50~52%減らすと表明。

*2030 年の排出削減目標は、2050 年実質ゼロの中間目標。

*英国は 2035 年に 1990 年比 78%減の目標。

*EU は 1990 年比 55%以上減らす計画。

*最大排出国の中国は、2030 年までに排出量を削減に転じさせる方針。

*米国は 2019 年時点で 2005 年比 13%減。

*日本も 2019 年度時点で 2013 年度比 14%減。

(2021 年 4 月 23 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(4) 台風に耐える洋上風力 GE、日本設置へ認証取得

*米ゼネラル・エレクトリック (GE) が大型の洋上風力発電機で初めて、台風にも耐えられる性能を示す国際認証を取得。

*10 分間の平均風速が 57Mでも壊れない設計。

*57Mは、今後 50 年以内に発生する可能性がある最大風速 (10 分間の平均風速の最大値)。

*日本のように台風や乱気流が襲来する地域でも安全性を確保できるとされます。 *製造コストは 10~20%高。

*台風や乱気流が発生しやすいアジアでも、洋上風力新設の検討が進む見通し。

*日本は 2030 年までに洋上風力 1000 万kw新設を目指しています。

*2030 年に世界で新設される風力発電の 41%がアジアに設置。

(2021 年 4 月 24 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(5) 「46%減」太陽光拡大で帳尻

脱炭素、経産省苦肉の積み上げ 2030 年目標 原発拡大には慎重

*政府は温暖化ガスの削減を巡り「2030 年度比で 46%減らす」という新たな目標。

*「39%減が限界」と訴えていた経済産業省は、7%分は太陽光発電の追加導入などで達成を目指します。

*発電全体に占める原発の割合は現在 6%。2030 年度に 20~22%を原発で賄う現計画。 (2021 年 4 月 27 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)